

# 令和元年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

## 常陸大宮市 解答と解説

組	番	氏名	
---	---	----	--

番号	解 説	答
1	常陸大宮市の面積は、348.45平方キロメートルで、茨城県内で2番目の広さがあります。そのうち森林原野が占める面積は約6割となっています。	4
2	バラは、気品高く情熱ある美しい花で、市を愛する市民の心と幸せのシンボルとしてふさわしい花です。	1
3	2019年(令和元年)5月1日現在、常陸大宮市の総人口は40,152人で約4万人です。	3
4	2006年(平成18年)1月15日、常陸大宮市泉坂下(いずみさかした)遺跡から、ほぼ完形の国内最大の人面付土器が出土しました。この土器は弥生時代の再葬墓遺構(さいそうぼいこう)に伴うもので、県内では市内小野天神前(おのてんじんまえ)遺跡からの出土以来30年ぶりです。	4
5	毎年7月に行われる祇園祭は、甲(かぶと)神社の境内にある素鷲(そが)神社の祭礼。関東の三大裸祭りとして有名で、大人神輿渡御(おとなみこしとぎよ)や子ども神輿渡御(こどもみこしとぎよ)が執り行われます。	2
6	鏡岩は、断層がずれる時に岩がお互いの表面を削り磨き合うことによってできた天然の岩です。常陸国風土記では、鬼が岩に写った自分の姿を見て驚いて逃げたという逸話が残っています。	1
7	雪村(せつそん)は、室町時代後期・戦国時代の水墨画家、僧侶です。常陸国部垂(へたれ)(現在の常陸大宮市)に佐竹氏一族の長男として生まれました。	2
8	2011年(平成23年)に常陸大宮市で約1600万年前に生息していたゾウ類のステゴロフォドンの頭蓋(ずがい)化石が発見されました。ステゴロフォドンの頭蓋化石は、宮城県、山形県で発見されていますが、常陸大宮市で発見された化石は、世界でも産出例のない切歯(せつし)を伴う完全な頭蓋で、極めて貴重な学術資料です。	2
9	常陸大宮市にある放射線育種場のガンマーフィールドは、ガンマー線照射を野外で大規模に行う国の施設です。放射線が外へ洩れないように、周囲を野球場のように高くして囲み、農園の中心に放射線源を置き、それが発する放射線で周囲の農作物の突然変異を人為的に誘発し、社会に有用な植物を作り出すという施設です。	3
10	この「間宮家住宅主屋」は、明治30年代初期に建築されたといわれる木造2階建て入母屋造りの家屋に、1902年(明治35年)、3階建ての洋風建築を増築したものです。特に増築部分は改変もなく、当時の洋風建築として貴重なものになっています。	1
11	尺丈山(しゃくじょうさん)は、鎌倉時代に如信上人(によしんしょうにん)という僧が杖(つえ)を忘れたことがその名前の由来といわれ、高さ511.5メートルの山です。	4
12	毎年11月中旬に清流公園で行われるやまがた宿芋煮会は、関東一の大鍋を使い奥久慈しゃもや地元産の食材をふんだんに使って大いに盛り上がっています。大鍋の重さは1.8トン。直径は約3.5メートルです。	2
13	「西塩子(にしおご)の回り舞台」は、常陸大宮市西塩子地区に伝えられてきた、日本最古の組立式農村歌舞伎舞台です。これは、農村歌舞伎が盛んであった江戸時代後期から伝えられてきたもので、県の「有形民俗文化財」に指定されています。	3
14	江畔寺(こうはんじ)には、市の天然記念物となっている樹齢470年、高さ40メートル、幹周り5.6メートルのイチヨウの木があります。	2
15	御前山(ごぜんやま)ダムの有効貯水量は650万立方メートルとなっており、那珂川沿岸の台地上に広がる畑地帯や小河川流域に介在している水田地帯に安定的な農業用水の供給をはかるため、那珂川に揚水機場を新設し、パイプラインによってそれぞれの地域(水戸市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、茨城町、大洗町、城里町、東海村の受益面積8,167ヘクタール)に送水する目的で建設された農業専用のダムです。	1
16	文化センターと図書情報館の複合施設(ロゼホール)は、1995年(平成7年)7月にオープンしました。川の流れを表現した緩やかな流線型の屋根は、自然をイメージしています。	4
17	常陸大宮市の西の内紙(にしのうちがみ)は、350年もの伝統をもつ和紙で、江戸時代には水戸藩の専売品で、水戸藩第2代藩主徳川光圀(とくがわみつくに)の編纂(へんさん)した大日本史にも使われました。また、西の内紙は、強韌(きょうじん)で虫もつかず、保存に適するとともに、水につけても破れにくいので、古くから布の代わりに着物にも使われました。	4
18	辰ノ口親水公園の堤防沿いを全長約1,300メートルに渡り桜並木が続いており、辰ノ口桜堤(たつのくちさくらつつみ)として親しまれています。	2
19	山方淡水魚館は日本一小さな規模の水族館といわれています。オオサンショウウオは国の特別天然記念物に指定されており、山方淡水魚館に3匹展示されています。	3
20	大きさが地上7メートルの日本一の大フクロウ(不苦労)像がある鷲子山上(とりのこさんじょう)神社は、天日鷲命(あめのひわしのみこと)を御祭神としており、古くからフクロウが大神様の御使い・幸福を呼ぶ神鳥として崇敬されています。	1
21	パラオは200を超える島で構成され、そのうちバベルダオブ島のマルキョクがパラオの首都になります。	4
22	高部宿(たかぶしゆく)にある喜雨亭(きうてい)は、明治中期に建築された三階櫓(さんかいやぐら)であり、その由来は、中国唐の詩人である杜甫(とほ)の詩「春夜喜雨(春夜雨を喜ぶ)」から名付けられたといわれています。当時の高部宿は、県内の文人が集う交流の場であり、喜雨亭はその中心地となっていました。	2
23	2018年(平成30年)のドラフト3位でプロ野球の北海道日本ハムファイターズに入団した、本市出身のプロ野球選手「生田目 翼(なばため つばさ)選手」は投手です。	3
24	吉田八幡(よしだはちまん)神社の参道脇には、樹齢800年を超える三浦杉が植えられています。伝承によると、平安時代、相模国(さがみのくに)の豪族である三浦大介義明(みうらのおおすけ よしあき)が下野国那須野(なすの)(現在の栃木県那須町)に九尾の狐を退治しに向かう途中、この地を訪れ願掛けとして植えたものとされています。地元の人は鎌倉杉と呼んでいたそうですが、江戸時代に徳川光圀(とくがわみつくに)によって三浦杉と名付けられ現在に至っています。	4
25	市マスコットキャラクター「ひたまる」のデザインは、豊かな緑、里山とその裾野に流れる清流を体で表現しています。「ひ」の文字を冠に付け、常陸大宮市のキャラクターであることをアピールしています。てっぺんに付けたふた葉は、子どもたちの持つ資質(個性・創造・活力)が伸びやかに発育するようという思いが込められています。	3